

2007.1.1

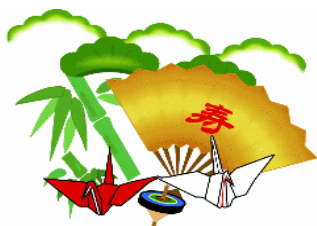
vol.28



特別医療法人高明会
西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://www.n-watanabe-hosp.jp/>



謹賀新年



院長 渡邊 高

新年、あけましておめでとうございます。
昨年、小泉内閣から安倍新内閣へ政権が移譲されました。

小泉前内閣は、困難・多難で不可能と思われた構造改革を進めました。衆議院解散・総選挙で、郵政改革の可否を国民に問い、勝利の結果怒涛のような勢いで改革を断行しました。

聖域と言われた医療分野での改革も進められ、昨年4月第5次医療改革が始まり、マイナス3.16%という厳しい診療報酬の改定が行われました。

高齢化・少子化社会の到来で始まった医療法改定20年の歩みは山あり谷ありで、依然として病院医療と診療所、公的病院と私立病院、公務員医師と一般医などのはっきりとした役割分担ができていません。

私どもの病院は、開院以来急性期疾病に対応した歩みを続け、平成17年には高明会総会で心臓・血管センター設立を発表、昨年5月に完成に至りました。

この心臓・血管センターは本院と同様、検診と診断、治療を充実させた医療活動を展開し、医療法第42条施設『健康塾』を附設しています。生活習慣病の啓発や学習の展開が重要視されている中、予防医療にも力を入れ、地域の皆さまの健康増進に貢献しております。



平成19年の特別医療法人高明会の活動目標を掲げ、新年の挨拶とさせていただきます。

高明会グループ内の連携を強化します。特に安全管理・感染対策・栄養サポート分野での密な連携を行っていきます。

各種勉強会・研修会・講演会・高明会ふれあいネット活動等を開催し、開放型医療機関の先生方にもご出席いただき、開かれた高明会グループ活動を展開していきます。

スタッフが各々の部署で役割を確認しながら使命感を持って業務を遂行し、チーム医療を推進、業務の効率化を実現していきます。

平成15年に2度目の機能評価受審・認定を終え、受審直後より3回目の受審に向けたプロジェクト活動を展開してきました。

本年は推進委員会を立ち上げて一層活動を強化していきます。

運動療法や薬物療法などにおいて、これまでの常識を破り科学的根拠を持った新しい治療方法を推進していきます。

医療の現場で患者さまや家族さまとともに、現状を踏まえた新しい生きる環境を作るお手伝いをしていきます。

本年もこの美しい西宮市で、美しい優しい病院医療を展開したいと思います。



新年あけましておめでとうございます。
今年も、どうぞよろしく願いいたします。

副院長 槌田 昌平

昨年は、医局内人事で出入りの多い1年となり、患者さま・病院スタッフにはご迷惑をおかけしたと思います。特に長年当院循環器疾患の治療に貢献された井上先生の退職は、大きな打撃となりました。



昨今の病院医療情勢は厳しく、特に医師の不足は、新しい臨床研修制度が始まった影響で、中小病院へ大きな打撃を与えています。そのような状況の中にあっても、我々は救急医療だけでなく生活習慣病の予防治療にも力を入れ、地域の皆さまのお役に立てるよう日夜努力をしています。循環器疾患への対応は、心臓・血管センターへ移行すべく準備が進められており、本格的には春頃になる予定です。何卒、皆さまのご理解とご協力のほど、よろしく願い致します。

看護部

看護部長 岡澤 恵子

昨年は個々のキャリア開発を目的に研修などに積極的に参加し専門領域の開発に努力した1年でした。結果、看護の質の向上をめざすものでした。



しかし診療報酬改定により看護配置7:1が新設され、看護師の定着率が重要視されるようになり、看護の質の向上と同時に『働きやすい職場』『働き続けられる職場』が求められるようになりました。

今年の改革は、教育プログラムなどハード面での変更だけにとどまらず、それらを運用するソフト面を同時に見直すべく、笑顔・優しさ・思いやりのある前向きな姿勢など、職場の活性化に効果をあげていきたいと思ひます。それが患者さまの安全・安心を支える大きな力になっていくと確信しています。



ICU 師長 田中 ひとみ

ICUは、他職種との連携を密にしたチーム医療を推進し、地域の皆さまに質の高い医療及び看護を提供できるようスタッフ一同努力しています。

今年もご入院される患者さまが安心して医療を受けられるよう、安全を重視した療養環境を提供していきたいと思ひます。



2病棟(療養型病棟)主任 水野 法子

療養型病棟では、患者さまがリハビリを中心とした療養生活を安全に安心して過ごせるよう、満足いただける看護を提供していきたいと思ひます。

4病棟師長 堀田 礼子

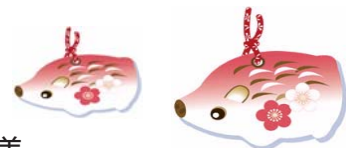
医療の高度化・高齢化が進展する中、急性期医療において、『安全と安心』の提供を第一に、患者さま中心の看護とは何かを常に考え、実践できるよう取り組んでいきたいと考えております。

5病棟主任 萩原 昇子

5病棟は急性期病棟として、わが病院の一翼を担っていますが、その入院生活の中で患者さまが求めている看護とは何かを考え、より良い看護の提供が行えるよう努力していきたいと思ひます。



今年も、地域の皆さまが健やかに暮らされる事を心よりお祈り申し上げます。



6病棟師長 池田 佳奈美

6病棟は亜急性期病床を15床持ち、より早い社会復帰を目標としていますが、トイレ訓練については数・面積等で患者さまにご迷惑をおかけしてしまひました。しかし昨年未改築工事を行い、患者さまにより快適な環境を提供することができるようになりました。

今年もスタッフ一同、患者さまに満足していただけるよう努力を重ねていきたいと思ひます。



外来主任 原島 由美

昨年12月、初めて患者さまへのアンケートを行いました。たくさんの患者さまにご協力いただき、多くのご意見を頂くことができました。

今年はそのご意見を有効に活かし、外来診察の場でも看護サービス提供の充実を図りたいと思ひます。

臨床検査室 林 安行

昨年は、心臓・血管センター開院に伴い臨床検査室も慌しい1年となりました。



検体検査では、循環器・生活習慣病・緊急検査に必要な検査項目の選定を行い、本院のデータとの相関を重視し検討を行いました。生理検査でも、心エコーのレベルアップが求められ、3D等新しい超音波機器にも慣れる必要がありました。またチーム医療の一環としてリハビリテーション科と連携し、循環器リハビリ対象患者さま選定の一助としてBNPなどの検査結果の提供を行いました。

今年も、ある程度担当制とし、スタッフ個人が専門分野で切磋琢磨し、検査室全体としての更なるレベルアップを目指したいと思ひます。また、心臓・血管センターとの業務の融合を図りたいと思ひます。

各部署より、

新年のご挨拶を申し上げます。

ハートケア西宮渡辺

施設長 池田 公行

介護老人保健施設 ハートケア西宮

渡辺は、昨年5月15日にオープンしました。開設当初には、入所者数の確保を急ぎすぎたことと、入所者の症状の評価に不慣れな点があったためと思われませんが、本来施設では対応困難なレベルの選択があったために、2～3のトラブルに見舞われましたが、その後は何とか順調に運営出来ているように思います。その経過を申し上げますと、11月13日には待望の満床を達成出来ました。9月1日よりショートステイをオープン、11月1日よりデイケアもオープンしました。介護度は発足当初の2.8点より11月13日には3.2点に、わずかながら上昇の傾向にあります。

催し物としまして、隔月に入所者さまのお誕生日会を開催し、毎回ボランティアの人たちの余興をお楽しみいただいております。また、9月9日には夏祭りを行いました。出し物は、和太鼓・民謡・盆踊り・沖縄舞踊・春日八郎ショーなどを取り揃え、予想していたよりもはるかに多数の御家族にも参加して頂いて、入所者さまには職員一同と一緒に、和気あいあいと賑やかな1日をお過ごし頂くことが出来たと考えております。

当施設では今後も、職員の個性と自主性を尊重し、入所者さま一人一人の実に多彩なニーズにお答え出来るよう努めて行きたいと考えております。皆様のご支援をよろしく申し上げます。

リハビリテーション科

塩田 智之

昨年10月より西宮渡辺心臓・血管センターでの入院リハビリを開始し、当初より考えていた包括的なリハビリテーションのハード面が整いました。

それを基に心臓・血管センターでは、入院リハビリを3階病棟にて実施し、入院中および退院時には生活・栄養・運動などの指導を実施することで退院後の予防に繋げ、退院後は体力回復や再発予防を目的に1階附設の健康塾にて運動を継続するとともに、外来診察において体調の管理を行うといった体制を強化していきたいと思っております。そして、これらのハード面をリハビリテーション科が上手く利用し、患者さまの指導がしっかりと行えるよう、今年はソフト面の整備をしっかりと行っていきたいと思っております。



西宮渡辺心臓・血管センター

センター長 山本 典良

当センターは昨年6月に開院し、9月より入院施設をオープンしました。

本来の形である救急対応・集中治療室（ICUおよびCCU）12床フル稼働まではまだまだですが、一歩ずつ確実に進んでいこうと思っております。まず今年4月には数名常勤の循環器内科医が派遣される予定ですので、4月以降はかなり充実した体制で、地域医療に貢献できるのではと思っております。

私は心臓血管外科医ですが、2年3ヶ月間のアメリカ合衆国留学（基礎研究）と2年間のニュージーランドでの臨床経験を活かして、地域の皆様に満足いく最良の医療を提供できるように頑張っていこうと思っております。

放射線科 和氣 利充

昨年は、心臓・血管センターの開院にあたり、放射線科も連携をとり試行錯誤した1年になりました。

放射線科は今年も引き続き、患者さまや職員が分かりやすい検査のシステム作りを考えていきたいと思っております。

また早期発見が重要な乳癌の検診として重要性が高まっているマンモグラフィー検査も、女性技師の入职により女性の患者さまが受けやすくなりましたので、検診・人間ドックの一環として患者さまにおすすめていきたいと考えています。

心臓・血管センターともども、放射線科スタッフ一同、技術・レベルを高めていながら接遇も考え、患者さま・職員から信頼される放射線科づくりを目指していきます。

薬剤部 久木 聡美

昨年4月より新メンバーを迎え、処方オーダーリングシステム及び病棟業務支援システムを導入し、業務の効率化に取り組んできました。

今年は、チーム医療に一層貢献できるよう、1病棟1薬剤師制を徹底化し、服薬指導・薬剤管理を充実させていきます。また、特殊治療（化学療法など）への取り組みを強化し、患者さまにより質の高い医療を提供できるように努めていきたいと思っております。



訪問看護ステーションむろかわ

吉川 光江



昨年は制度改定の年で、内容把握のためいろいろな研修に参加して情報収集に努めました。訪問看護サ-ビスは医療面の支援ですが、介護保険内で活動することが大部分で、特定疾患等の場合に医療保険が適応されることとなります。長期に渡る入院生活で生きる気力を失いかけた方が、熱心な家族の介護の力で回復され、想像より快適に在宅生活が再開できた時は、訪問看護の手ごたえを感じます。住み慣れた自宅で家族の愛情を受けることが、いかに脳の活性化につながるかということを実感しています。

今年も、常に謙虚な態度で、心のこもった看護が提供できるよう努力してまいります。



居宅介護支援センターむろかわ

松本 いずみ



介護保険制度は今年で7年目を迎え、医療保険制度と同様に大きく変化しています。

介護保険は昨年の改定により、予防給付と介護給付に分かれ、要支援1・2の方が予防給付、要介護1から5の方が介護給付となりました。利用者さまが要介護から要支援になった際には、地域包括支援センターと連絡・連携をはかり、サービスがスムーズに移行できるよう努力しております。

在宅で生活する上で、医療機関と地域との関わりはとて大切であり、これからも連携を大切にしていきたいと思っています。利用者さまの出来るところを尊重し、少しでも生活の質の向上と自立のお手伝いができるよう努力していきたいと思っています。

栄養課 松下 藍子



昨年は新しく2名のスタッフを迎え計4名となり、1名ずつ開設された西宮渡辺心臓・血管センター・ハートケア西宮渡辺に配属、それぞれが栄養管理業務に努めています。

心臓・血管センターはオール電化厨房で、ガスを使用しないため厨房内の温度管理が容易となり、衛生管理が一層徹底化されました。

本年も栄養課は、栄養指導・栄養相談を充実させることで、メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防改善に貢献していきたいと思っています。

グループホームむろかわ

ホーム長 岡田 實



認知症対応型生活介護施設として開所し、丸3年が過ぎました。現在27名(満室)の入居者さまが、職員とともに24時間生活を共に過ごされています。

昨年は、年1回の認知症高齢者グループホーム第三者評価を4月に受審、また9月よりホーム運営推進会議を定期開催し、入居者さまご家族代表・地域民生委員・行政から西宮市・他ホーム介護支援専門員・ホーム側の5者が集まる会議を2ヶ月に1回行っています。

このように、第三者による公平なホームの評価を受け、地域の皆さまとのふれあいを通じ、より開かれたグループホームを目指します。

今年もホームの理念である『敬愛』を胸に、笑顔を忘れず職員一同頑張ります。

地域医療連携室 鈴木 生子



単科病院の医療相談室勤務10年を節目として、複数診療科のある医療機関での地域医療に携わるべく、昨年入職いたしました。

MSW2名体制となり、これまで各部署で分担していた病病連携・病診連携の前方支援業務窓口の一本化を図っていききたいと思います。そして、在宅療養・転院・転所相談を支援する後方支援業務担当との協力体制を確立し、地域医療ネットワークの構築を目指して地域医療連携室をスタートします。今年も、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、グループホーム、老健、心臓・血管センターと、地域のニーズに応えて発展を続ける高明会グループのアンテナ機関となるべく努力していく所存です。

医事課 藤原 新吾



昨年は診療報酬改定が行われ、それも例のない4月・10月の2度にわたる改定で医療業界に変革をもたらした1年であったように感じます。医事課もその対応・対策にあたってきましたが、現実の厳しさに直面しています。

今年も厳しい医療情勢に対応していきながら、昨年から実施しております院内IT化推進による会計待ち時間短縮強化をはじめ、患者さまに満足と安心を提供できるように創意工夫していきたいと考えています。

『医事課は病院の顔である』という誇りを持って、今年もスタッフ一同頑張っていきます。



むろかわ News に対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

※ 当院各階詰所・1F 出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。